



KOHEI NAWA - SYNTHESIS

名和晃平 — シンセシス —

PRESS RELEASE

【開催趣旨】

「Cell」という概念をもとに、先鋭的な彫刻・空間表現を展開する名和晃平(1975年生まれ)の個展を開催します。

名和はビーズやプリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなど流動的な素材・メディアを情報社会における感覚や思考のメタファーとして扱い、デジタルとアナログの間を揺れ動く身体と知覚、感性のリアリティを表現しています。本展では、国内外での多数の受賞・発表をふまえ、パラレルに姿を変える名和作品の根幹を各カテゴリーの方向性や相互の関係から探り、そこにかいま見える今後の姿を追求します。BEADS / PRISM / LIQUID / GLUE / SCUM / DRAWINGなどのカテゴリーに新たな展開を加え、音楽やファッション、プロダクトデザイン領域とのコラボレーション、パブリックアート、プロジェクトチームによる制作などを通して、国際的に活躍する作品世界の魅力が紹介されます。また、手法そのものの開発からスタートする表現スタイルなど、名和作品の多義的な創作のありかたを探ることによって、そのすぐれた造形性、表現の拡がりや可能性を呈示します。

名和は「映像の細胞PixCell=Pixel(画素)+Cell(細胞・器)」という概念を通して、感性と物質の交流の中から生じてくるイメージを追求しています。彼は自らを「彫刻家」としながらも、私たちが、感性と物質を繋ぐインターフェイスである「表皮」の質を通して対象をリアルに感知・認識していることに注目し、その表現領域をさらに拡げつつあります。本展は、その卓越した表現力の源とは何か、そして次世代の創作のあり方について考える貴重な機会となるでしょう。



1



2



7

【展覧会のみどころ】

公立館初の大規模個展

名和は京都市立芸術大学彫刻専攻に在学中、英国王立美術院(Royal College of Art)に学び、2003年には博士論文「感性と表皮…現代彫刻における一方法論」によって学位を取得しました。在学中、早期から国内外で意欲的な活動をスタートし、多数の発表・受賞を積み重ねてきた若手作家の旗手として、待望の大規模な個展が開催されます。

作品カテゴリーを俯瞰する視点

名和がこれまで展開してきた作品の各カテゴリーが初めて総合的に展示されます。

「BEADS」…インターネットで収集した動物の剥製などモチーフの表面を透明のビーズで覆い、その存在を「映像の細胞」(PixCell)として呈示します。

「PRISM」…イメージの器であるCellの概念が箱状になり、光を分光するプリズムシートによって、箱の中に存在するはずのオブジェが角度により虚像となります。

「LIQUID」…白く発光するシリコンオイルの液面に現れては消える泡を、視覚と触覚の刺激として無数に生成される「セル」として表現します。

「GLUE」…グルーガンで壁に描かれ「ツタ」のように成長する絵／彫刻です。

「SCUM」…発泡ポリウレタンによって作られた表皮が、PixCellの泡が湧き出たあく(=Scum)となり、膨らみ鈍磨していく感覚を示します。

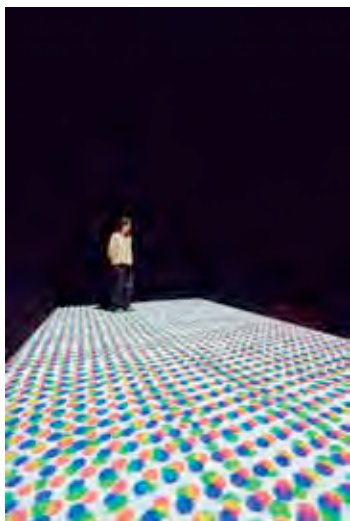
「OTHER WORKS」…その他の多様な試みのひとつ「Dot-Movie」は、絵の具を一滴ずつ垂らして描いたドットパターンの投影によって、機械的配列と手描きによるアナログな揺らぎのせめぎ合いを体感する映像インスタレーションです。また、本展では、絵画作品「Drawing」や、新しいトライアルが展開されます。

空間・光、回遊型の展示デザイン

地下2階企画展示室とアトリウムの空間全体に、小さなオブジェから大型作品まで、多数の作品群がダイナミックに展開されます。展示は、カテゴリーごとに個性を持つ空間を繰り返し回遊できる構造になっています。来館者は、キャプションや解説を極力省いた作品空間を何度も巡りながら、シリーズの相互関係やその根幹について、思索にふけることができます。また、従来は個々のカテゴリーが独立した存在として展開されていましたが、今回はそれぞれのカテゴリーをつなぐ通過点としての「変容する造形」など、展示室に満ちたその作品世界全体を目にし、体感することができます。

多様なコラボレーション・作品集刊行

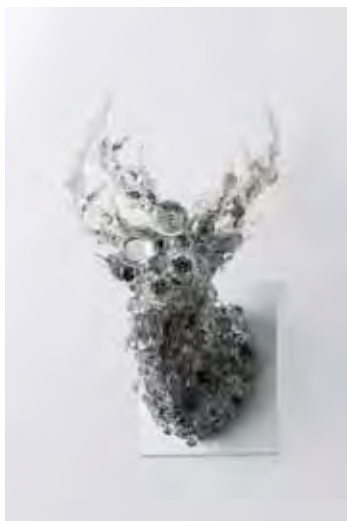
会期スタート後に、美しいビジュアルや写真記録、作家自身のテキスト・論考、ドキュメント・資料データ等を収録し、本展公式カタログとして、初期の名和晃平の定本といえる作品集の刊行が予定されています。また、商業的なプロジェクトを含めて近年、名和が手がけた多様な領域とのコラボレーション(音楽やファッション、パブリックアート、プロダクトデザインなど)が展示のしめくりで紹介されます。さらに、本展への展示支援の試みとして、研究機関との連携によって開発された展示手法も試行されます。会期中に開催されるイベント(*詳細は当館HPでご確認ください)とあわせて、多義的に展開される作品世界を体験してみましょう。



3



4



5



6



8



9



10

【展覧会情報】

名和晃平—シンセシス 展

会 期=2011年6月11日(土)–8月28日(日)

会 場=東京都現代美術館 企画展示室地下2階・アトリウム

主 催=公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 共 催=産経新聞社 協 賛=株式会社 資生堂

協 力=SCAI THE BATHHOUSE / SANDWICH / 京都造形芸術大学 ULTRA SANDWICH PROJECT#1-5 / Peng Pei-Cheng Collection / Queensland Art Gallery / 株式会社そごう・西武 / セーニャ・アンド・カンパニー / 株式会社エービーシー商会インサルパック営業部 / DIC株式会社 / 信越化学工業株式会社 / 株式会社ノマル / 株式会社ケイズデザインラボ / 株式会社ゼネラルアサヒ / 東リ株式会社 / 株式会社ドウエル アソシエイツ / 株式会社日本ネットワークサポート (関西電力グループ) / オプトコード株式会社 / Bean Sprout Tokyo / TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE / パナソニック電工株式会社 / NECディスプレイソリューションズ株式会社 / 日本ヒューレット・パッカード株式会社 / 丸紅情報システムズ株式会社 / 東京大学苗村研究室 / 慶應義塾大学寛康明研究室 / BEAMS ARTS ほか

休館日=月曜日(7月18日、8月15・22日は開館 / 7月19日は休館)
時 間=10:00–18:00(入場は閉館30分前まで) *節電等の影響により、開館時間の変更や臨時休館の場合もありますので、予めホームページ等でご確認の上ご来館ください。

観覧料=一般1100(880)円、学生・65歳以上800(640)円、中高生600(480)円

* ()内は20名以上の団体料金。小学生以下、障害者手帳をお持ちの方と付添者2名、第3水曜日に観覧する65歳以上は無料

* 企画展のチケットでMOTコレクション展もご覧いただけます。*同時開催「フレデリック・バック展」との共通券もございます。

本展広報用として、11点の図版がございます。
掲載ご希望の方は別紙FAXシートにてご希望の図版番号をお知らせください。

【関連プログラム】

プログラム詳細は、東京都現代美術館公式HPに順次アップいたします。

【関連出版】

会期中に展示風景を収録した名和晃平展公式カタログを刊行します。(刊行=赤々舎)

【展覧会スタッフ】

企画=森山朋絵(学芸員) / 広報=小原久実子(広報班)

【所在地・広報お問合せ先】

東京都現代美術館 〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1
TEL. 03-5777-8600(ハローダイヤル) / 03-5245-4111(代表)
<http://www.mot-art-museum.jp>
東京都現代美術館 事業企画課企画係広報班 小原
E-mail: k-ohara@mot-art.jp
Tel: 03-5245-1134(広報直通) / Fax: 03-5245-1141

【展覧会ホームページ】

<http://www.mot-art-museum.jp/koheinawa/>

【交通案内】

- ・東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分
- ・都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
- ・JR東京駅丸の内北口2番乗り場より都営バス(東20)
「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車
- ・首都高速「木場」または「枝川」出口利用



名和晃平 KOHEI NAWA

彫刻家
京都造形芸術大学准教授
<http://www.kohei-nawa.net/>
<http://sandwich-cpca.net/index.html>

11

作家略歴

1975年大阪生まれ。1998年、京都市立芸術大学彫刻専攻卒業後、英国王立芸術大学院 (Royal College of Art) 交換留学。2003年、京都市立芸術大学大学院美術研究科博士 (後期) 課程彫刻専攻修了。2005年、アジア・カルチュラル・カウンシル (ACC) 日米芸術交流プログラムでニューヨークに滞在。2006年、ダ임ラー・クライスラー・ファウンデーション・イン・ジャパン 芸術支援活動プログラム「アート・スコープ2005-2006」でベルリンに滞在。また、SCAI THE BATHHOUSEで個展を開催し、注目を浴びた。国内外での個展、グループ展は多数。「ものの表皮」への意識から発して、感覚や思考のメタファーとしてのマテリアルを「Cell」という概念をもとに様々な表現に展開する。2009年、銀座のメゾンエルメスで個展「L_B_S」を開催。海外ではドイツ・ハンブルグのVera Munroにて個展を開催し、現地の美術関係者やコレクターらの賞賛を集めたほか、プリズペンでの第6回アジア・パシフィック・トリエンナーレに参加し、出展作の写真が展覧会カタログの表紙を飾るなど国際展のハイライトとして大きな注目を集めた。2010年には、釜山ビエンナーレやバンガラデシュ・ビエンナーレに日本代表作家として参加し、バンガラデシュでは最優秀賞を受賞した。さらに、KDDIの携帯電話iidaのArt Editionsとして携帯のコンセプトモデルを発表、豊洲街区へのパブリックアート設置、人気ミュージシャンのミュージックビデオを手がけるなど、幅広い活動をより充実させている。その傍ら2009年に旧サンドイッチ工場を改装した創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」(京都伏見区)を立ち上げ、自身の作品制作の他、アーティストやデザイナー、建築家など様々なジャンルのクリエイターが集ってプロジェクトが進行するスタジオをディレクターとして運営している。現在、京都造形大学准教授として教鞭を執り、アーティスト・ヤノベケンジがディレクターを務めるULTRA FACTORYでは、多数の学生らとともに、2010 ULTRA SANDWICH PROJECTとして「クリーンルーム」における素材実験・技術開発など、自らの作家活動の全貌を間近で目撃・体験することのできるチーム・プロジェクトを展開する。(SANDWICH URL) <http://sandwich-cpca.net/index.html>

主な受賞

- 1998年 京都市立芸術大学制作展「少年と神獣」 同窓会奨励賞
- 2003年 博士論文「感性と表皮—現代彫刻における一方法論」 梅原賞
京都府美術工芸新鋭選抜展 最優秀賞
キリンアートアワード2003 奨励賞
- 2004年 咲くやこの花賞 [美術部門] (大阪市)
- 2005年 京都市芸術文化特別奨励者
- 2007年 京都府文化賞 奨励賞
- 2008年 六本木クロッシング2007 特別賞
- 2010年 バンガラデシュ・ビエンナーレ 最優秀賞

主な個展・グループ展

2002年「CELL」ノマルエディション／プロジェクト・スペース (大阪)、2005年「開館10周年記念展 超[メタ]ヴィジュアル」(東京都写真美術館)、「第三回バレンシア・ビエンナーレ」(バレンシア)、2006年「GUSH」SCAI THE BATHHOUSE (東京)、2008年「The poetry of bizarre」ミロ美術館 (バルセロナ)、2009年「Cell」GALERIE VERA MUNRO (ハンブルグ)、「L_B_S」メゾンエルメス8階フォーラム (東京)、「第6回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(プリズペン)。2010年は、釜山ビエンナーレやバンガラデシュ・ビエンナーレに日本代表作家として参加し、バンガラデシュでは最優秀賞を受賞した。さらに、KDDIの携帯電話iidaのArt Editionsとして携帯のコンセプトモデルを発表、豊洲街区のオフィスビル豊洲フロントにパブリックアートとして「VIA-Wall」設置。個展「Synthesis」(東京・SCAI THE BATHHOUSE)、2011年東京都現代美術館で個展開催。

パブリックコレクション

原美術館、東京／高松市美術館、香川／東京都現代美術館、東京／森美術館、東京／株式会社竹中工務店 本社屋 エントランス・ロビー、東京／新丸の内ビルディング、東京／豊洲フロント、東京／The Sovereign Art Foundation、香港／Franks Suss コレクション、ロンドン／ダ임ラー・クライスラー・コンテンポラリー、ベルリン／ピゴッチ・コレクション、アメリカ／クイーンズランド・アート・ギャラリー、オーストラリア・プリズペン ほか

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、画像を11点ご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファックス又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

また読者様・視聴者様へのプレゼント用招待券もご手配可能ですので、ご希望の場合はお申し付けください。

媒体名: 『 _____ 』

○印をおつけください

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日: _____

御社名: _____

ご担当者名: _____

Eメールアドレス: _____

@

(〒 _____)

ご住所: _____

お電話番号: _____

FAX: _____

図版番号: ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

- ① 《PixCell-Double Deer#4》, 2010, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE, 撮影:表恒匡
- ② 《PixCell_Saturation#2》(部分)“L_B_S”メゾンエルメス8Fフォーラム(東京)展示風景, 2009, Work created with the support of the Fondation d'entreprise Hermès, 撮影:豊永 政史
- ③ 《Dot Movie》, 2009, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE and Gallery Nomart
- ④ 《Catalyst#11》(部分), 2008, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE and Gallery Nomart, 撮影:豊永 政史
- ⑤ 《PixCell-Double Deer#3》, 2010, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE, 撮影:表恒匡
- ⑥ 《VIA-Wall》豊洲フロントパブリックアート, 東京, 2010, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE and TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE, 撮影:甲斐裕司
- ⑦ 《Villus#2》第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ展示風景(最優秀賞)2010, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE, 撮影:表恒匡
- ⑧ 《PixCell[Zebra#2]》, 2009, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE, 撮影:豊永 政史
- ⑨ 《Air Cell-A_36mm》(部分), 2006, Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE and Gallery Nomart, 撮影:木奥 恵三
- ⑩ 《Villus》(部分)“L_B_S”メゾンエルメス8Fフォーラム(東京)展示風景, 2009, Work created with the support of the Fondation d'entreprise Hermès, 撮影:表恒匡
- ⑪ 撮影:表恒匡

プレゼント用招待券をご希望の場合は ✓ をおつけください。 □ 10名様 / □ 20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班

小原 k-ohara@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141